

平成25年度 教員免許状更新講習「学校教育と体験活動B」

1 趣旨

社会の発展とともに子どもを取り巻く環境は大きく変化した。特に、自然体験活動の経験が減少し、自然や人との関わりから得られる知恵や知識、能力が身に付かず、「社会性」や「生きる力」が十分に育っていない子どもが多くなっている。

そこで、本講習では学校教育における体験活動の意義を再認識するとともに理解を深め、実際の教育現場での活用の仕方について考える。そのために、大学教員や自然の家職員の講義に加え、自然の家で実施している「自然体験活動プログラム」を実際に体験することによって、体験活動についての基本的な考え方や指導技術等を身に付ける。

2 主催

国立大学法人 宮城教育大学

3 共催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

4 期日

平成26年1月11日（土） [日帰り]

5 場所

国立花山青少年自然の家

6 参加対象と人数

免許状更新対象者（幼稚園、小学校、中学校、高等学校教諭） 30名

7 参加状況

	宮城県		山形県		岩手県		計
	男	女	男	女	男	女	
受講者	19	5	1	1	0	1	
計	24		2		1		27

8 日程

時刻	プログラム	内容等	場所
8:30	受付開始		玄関ロビー
9:00	【開講式】	インフォメーション	大研修室
9:10		諸連絡（事務局）	
9:10	【講義1】 「学校教育と自然活動」	講師 宮城教育大学教職大学院 教授 梨本 雄太郎	大研修室
10:10			
10:20	【実習1】 「アイスブレイキングの手法」	講師 国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 奥山 洋	大研修室
11:05			
11:10	【講義2】 「体験学習法の理解」	講師 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 久光 新一	大研修室
12:00			

12:40	【実習 2, 3】 「火起こし体験」 「焼板作り」	講師 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 久光 新一	工作館
14:25	【実習 4】 「雪上ハイキング」 かんじき、スノーシュー歩 行体験	講師 国立花山青少年自然の家 事業推進係長 曾根 正幸	屋外
15:35	【実習 5】 「ふりかえり」 (評価と反省)	講師 国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 奥山 洋	大研修室
16:25	【試験】 「筆記試験」	担当 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 久光 新一	大研修室
16:55	【評価】 「アンケート記入」	担当 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 久光 新一	大研修室
17:00	【閉講式】	インフォメーション 諸連絡 (事務局)	大研修室

9 実施状況

(1) 宮城教育大学との連携・協力



宮城教育大学 梨本雄太郎教授による講義
【講義 1】「学校教育と自然活動」

宮城教育大学との連携事業であり、講習時間は6時間である。

30名の募集人員に対して27名(3名キャンセル)の免許更新対象者が受講した。宮城教育大学と国立花山青少年自然の家それぞれの特徴や教育資源を生かし、互いに連携・協力し合いながら講習を実施した。主に知識・理解に関する部分は大学が担当し、梨本雄太郎教授による「学校教育と自然活動」と題する講義において体験活動の意義や効果についての理解を深めた。

(2) 自然の家の特色を生かした体験活動の実施

自然の家職員による講義や実習では、梨本教授の講義をふまえ、実際に自然の家で行われている自然体験活動プログラムの事例をとおして体験学習に対する理解や実践を深めた。

まず、初めて出会った受講者同士が「アイスブレイク」とおして心をはぐし、各グループのメンバーの顔合わせを行った。新年度のスタートや体験学習実施にあたってのグループづくりにぜひ生かしたいという受講者の声が多かった。

次に、自然の家で実施している自然体験活動プログラムの目的や方法、具体的な実践に関する講義を行った。その後、実際に「火起こし」「焼板作り」「雪上ハイキング」を体験した。理論と実習を組み合わせることで、受講者自身が児童・生徒の立場になって体験活動の教育的効果と有効性を実感するとともに、教育現場での活用のイメージを持つことができた。



【実習1】「アイスブレイキングの手法」



久光新一主任企画指導専門職による講義
【講義2】「体験学習法の理解」



【実習2】「火起こし体験」



【実習3】「火起こし体験」



【実習4】「雪上ハイキング」



【実習5】「ふりかえり」
(評価と反省)

10 成果と課題

(1) 成果

- ・大学と自然の家が連携協力することにより、それぞれの専門性を生かした講習を実施することができ、受講者の評価も高かった。
- ・「教える立場」と「教えられる立場」を意識することにより、単なる講習ではなく、教育現場での実践に役立つ講習内容とすることができた。
- ・グループでの体験活動を取り入れることにより、受講者相互の交流を深めることができた。
- ・国立花山青少年自然の家の宣伝の効果もあり、教育活動における自然の家の活用の在り方について情報提供することができた。

(2) 課題

- 事務的な連携にとどまらず、大学との情報共有や連携協力を密にすることで、受講希望者のニーズにそった情報を発信していくとともに、講習内容について吟味していく必要がある。
- 受講者の交通安全確保を考えると、冬の講習は日程設定が難しい面がある。実習の時間を確保するために1泊2日での開催も検討する。